

第4問（8点）

築波商事株式会社と（株）守谷電機は主たる営業活動として電化製品の販売を行っており、それぞれ商品発送時に売上、商品受取時に仕入を計上している。なお、築波商事は商品を発送した際に、守谷電機へ請求した額と同額の送料を小切手を振り出して支払っている。次の証ひょうは、両社の間で行われたある取引に係るものである。

納品書 兼 請求書			
(株) 守谷電機 御中			
築波商事株式会社			
商品	数量	単価	金額
5 G タブレット Wi-pad	20	25,000	500,000
送料	—	—	30,000
合計			¥530,000
振込期限：6月30日			
振込先：茨城銀行築波支店			
普通 1234567 ツクバシヨウジ（カ）			

当座勘定照合表（抜粋）		
(株) 守谷電機 様		
常総銀行守谷支店		
取引日	摘要	支払金額
6.30	お振込ツクバシヨウジ（カ）	530,000
6.30	お振込手数料	400

上記の証ひょうにもとづき、次の各取引時の仕訳を答えなさい。

1. 築波商事が商品を発送した時
2. 守谷電機が商品を受け取った時
3. 築波商事が代金の振り込みを受けた時
4. 守谷電機が代金を振り込んだ時

ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現	金	普通預金	当座預金	売掛金	買掛金
売	上	受取手数料	仕入	支払手数料	発送費

第5問 (30点)

次の資料にもとづいて、当期 (X8年4月1日～X9年3月31日) の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、当社は取引銀行と¥500,000を限度とする当座借越契約を交わしている。

[資料 I] 決算整理前残高試算表

		X9年3月31日		(単位:円)
現 金	450,000	支 払 手 形	760,000	
現 金 過 不 足	19,000	買 掛 金	890,000	
当 座 預 金	200,000	借 入 金	3,600,000	
受 取 手 形	900,000	仮 受 消 費 税	984,000	
電 子 記 録 債 権	1,200,000	貸 倒 引 当 金	12,000	
売 掛 金	730,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	8,100,000	
仮 払 消 費 税	656,000	資 本 金	2,000,000	
繰 越 商 品	610,000	利 益 準 備 金	100,000	
建 物	15,000,000	繰 越 利 益 剰 余 金	1,355,000	
備 品	1,800,000	売 上	9,280,000	
仕 入	3,280,000	受 取 手 数 料	560,000	
給 料	3,040,000	受 取 家 賃	945,000	
通 信 費	320,000			
保 険 料	180,000			
租 税 公 課	156,000			
消 耗 品 費	45,000			
	<u>28,586,000</u>		<u>28,586,000</u>	

[資料 II] 決算整理事項等

- 決算日において、現金過不足¥19,000の原因をあらためて調査した結果、通信費¥23,000の記入もれが判明した。残りの金額は原因が不明であったので、適切な処理を行う。
- 仕入先に振り出していた手形のうち¥300,000が期日を迎え、当座預金口座から引き落とされていたが未処理となっている。
- 期末に当座借越がある場合、借入金として計上する。
- 商品の広告宣伝に係る請求書(3月分¥90,000)が決算直前に到着していたが、未処理であった。
- 期末商品棚卸高は¥570,000である。
- 売上債権の期末残高に対して、貸倒実績率2%により貸倒引当金を設定する。
- 建物および備品の減価償却は、次の条件にもとづいて行う。なお、備品はすべてX8年11月1日に取得し、同日より使用を開始しているものである。  
 建物：定額法、残存価額は取得原価の10%、耐用年数30年  
 備品：定額法、残存価額ゼロ、耐用年数6年
- 購入時に費用処理していた収入印紙¥45,000が未使用となっている。
- 家賃は、毎年同額を1月1日に向こう1年分として受け取っており、本年も同額を受け取っている。
- 保険料は、X8年10月1日に向こう1年分を支払ったものであり、未経過分を適切に処理する。
- 借入金は、X9年1月1日に期間1年、利率年4%で借り入れたものである。利息は元本返済時にまとめて支払う。
- 消費税は税抜方式で処理している。
- 当期分の法人税、住民税および事業税が¥900,000と算出された。